



## 後味の良さ

新鑛業開發株式會社

社長 下野 十 朗

大正二年學校を出ると直ぐ古河鑛業に入り、足尾銅山に勤務した。その年のうちに軍隊に入り、前後三年半を兵役に服した。實社會への出發點において、同期の級友たちと大きなハンディキャップがついてしまった。

人格を無視した軍隊の苛烈な環境中に在つては、後我の境地に身を置き、命ただ之れ従うで、職責に専念して自ずと身心を鍛練していたので、幸いにこれが私の社會活動の推進力となり、旺盛な体力に物をいわせ不屈の努力を續け、三年半のハンディを蹴とばし今日に至つた次第で年を重ねるに従い、その思い出は懐かしさとなり「後味の良さ」をつくづくと感じることがある。

舊軍閥の軍國主義には共鳴出来ぬが、軍隊生活における徹底した訓練は、敗戦日本の再建を双肩に擔つている今日の若人に覇氣と責任感を涵養させるに役立つと信じる。

次に多少趣きは異なるが、私の足尾銅山における最初の十數年間の勤務も亦「後味の良い」思い出に充ちている。大正初期の足尾は曰く「天下の足尾」で、尊敬に價する優秀な技術者の先輩と、實地上りの老練な現場係員の多數が兩翼から學校出の若い技術者を指導鞭撻して随分厳しい鍛え方であつた。殊に私は前述のように兵役のため毎年職場を離れ、その都度受持職場が變更される始末で、厄介な存在だつたろうと思われるが、先輩の指導の許で、鍛えた体力に依り石頭に鞭打ちつつ着々實績を重ねてきたので、來し方を振返つて先輩各位から受けた温かい指導に對し常に感謝を禁じ得ない。

私共が先輩から受けた指導方法は現今の若い人達からは封建的だ、非民主的だ、又は獨善的だと非難されるかとも思うが、その指導の目的は成るだけ早く後進に道を開いてやろう、と云う親切から出た純粹な氣持からだと思ふ。その當時は時に反感を覺える節もあつたが、後年に至り、反感は感謝に變つて後味の良さを覺えるとともに、自分もまた後進の指導に微力を盡すことが、先輩に對する謝恩の一端だと考へている。

日本鑛業協會誌 (第三卷第五號)

### 五月號目次

(卷頭言)

☆後味の良さ……………下野 十朗…三

☆二十五年における

銅、鉛、亞鉛地金の動きに關する

考察……………調査部金屬課…四

☆我國非金屬鑛業の實態

大島 敬義…五

☆有利な坑道レシーバー

チャールズ・ベンゼリ…二四

(解説)

☆鑛業關係第七國會通過法律

梶 原 茂…七

(スポット)

▽金山再建と見返資金……………三

(文献紹介)

▽MINING GEOLOGY……………三

▽排ガス利用の硫酸製造設備の

建設が進められてゐる……………三

▽ニュース……………三

▽資 料……………三